

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2870901879 | | |
| 法人名 | 株式会社 ユーサイド | | |
| 事業所名 | グループホーム フレーゲ甲子園 | | |
| 所在地 | 兵庫県西宮市鳴尾町2丁目25番22号 | | |
| 自己評価作成日 | 平成23年3月6日 | 評価結果市町村受理日 | 2011年5月18日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|----------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西 |
| 所在地 | 兵庫県川西市中央町8-8-104 |
| 訪問調査日 | 2011.年3月15日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境のもとで、入居者様が有する能力に応じ、可能な限り自立を営むことを支援し、安心して、その人らしい生活を送っていただけるよう、愛情と誠意を持って援助いたします。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は交通量の激しい道路に面した商業地域に位置するが、周辺道路は歩道が広く隣地が公園のため、室内は静かで広いガラス戸を通して季節を楽しむことができている。建物の裏口の前が医院であり、緊急時相談にも対応してもらえ、さらに母体協力病院のバックアップもあり医療面での信頼度は高い。道路向いが消防署で、緊急時災害時には協力が得られる体制である。介護サービスの基本方針として、「生きていてよかったと思うひとときを感じられる介護をめざす」などを掲げ、職員の意識統一を図るべく取り組んでいる。利用者の高齢化に伴い活動能力が低下傾向にあり、住民との交流に参加できないことがあるが、地域の一員としての生活を支える支援を続けてほしい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 地域に密着し、貢献する理念を、玄関ホール、各階事務所に掲示し共有し取り組んでいる。 | 介護サービスの基本方針をもとに、理念の実践が図れるようスタッフ会議等で話し合いを続けていきたいと考えている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会、子ども会の行事等連絡をいただき、参加できる催しには、参加し交流させていただいている。 | 中学校文化祭には事業所コーナーが用意され、毎年作品を展示し交流している。祭りの子ども神輿が玄関前に立ち寄ってくれるので利用者の楽しみとなっている。散歩時には挨拶することに努め、時には季節の花をいただくこともある。 | 日々の介護を通じて積み上げている認知症への理解や、その人らしい暮らしの支援方法などを、地域の高齢者介護に活かす働きかけをされてはいいかがか。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 隣接する公園の清掃を行い、また、消防訓練、救命講習など自治の方に呼びかけ、地域に貢献できるよう取り組み始めている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回開催し、報告を行い、推進委員の方々に意見をいただき、地域の中で生活していく大切さについて考えながら、サービスの向上に活かしている。 | 2ヶ月に1回であるが、市担当課との関係で去年は7回開催。入居者の状況や行事報告をし、事業所の課題等については意見交換を行っている。地域代表の民生委員からは地域の情報と高齢者相談等が寄せられる。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 西宮市介護保険グループ、高齢福祉グループ、地域包括センターの方々と連絡を密にとり、協力関係を築くよう取り組んでいる。 | 運営推進会議の議事録を市担当者に持参して報告し、疑問点は気軽に相談できる関係である。地域からの相談を地域包括センターにつないだこともあり、関係機関とは日頃から連携を密にするよう心がけている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 玄関前は、交通量が多く、入居者様の安全性を最優先し、ご家族様の要望もあり施錠しているが、検討はしている。 | 交通量が多い道路に面しているため、安全を考慮し家族の了承のもと玄関は施錠している。ペランダへは出入りでき、階の移動や屋上へは職員付き添いで行っている。 | フロア同士の交流や屋上などへも頻回に出られるなど、自由に行き来できるような工夫を重ねてほしい。 |
| 7 | (6) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 入浴時、更衣時等、注意を払い異変がないか、確認し防止に努めている。 | 申し送り等でケアを振り返り話し合っているが、研修参加は十分とはいえない。管理者は、今後研修を行い職員の意識付けを図っていきたいと考えている。 | 高齢者虐待防止法等に関する理解浸透に向け研修を重ねてほしい。 |

| 自己 | 者 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|---------|--|---|---|------------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | (7) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 個々の必要性に応じて活用できるよう支援している。 | 権利擁護制度等に関する資料は備え付けているが、勉強会は行っていない。管理者としては、必要な時に支援できる体制が取れるよう勉強会を行いたいと考えている。 | 制度を十分理解し、対応が必要と思われる利用者の支援につなげてほしい。 |
| 9 | (8) | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居契約時に十分説明を行い、理解を図っている。 | 希望があれば2泊3日の体験入居を用意している。多くは見学体験であり、その際に出された要望・希望・不安等を受け止め話し合っている。契約内容に関しては時間をとって説明し、理解と納得を得るよう努めている。 | |
| 10 | (9) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族様との個人面談を行い、面会時、その他意見箱を設置し、意見、要望をいただけるようにしている。 | 家族来訪時には声掛けし、気軽に話し合える時間を作るようにしている。年1回利用者や家族と三者面談を行ない、忌憚のない意見を伺っている。出された意見は記録し、職員で共有のうえ検討している。 | |
| 11 | (10) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | スタッフ会議、リーダー会議、その他の会議、個人面接等で意見、提案を聞き運営に反映させている。 | 毎年度初めに職員は反省と個人目標を立て、施設長、副施設長、管理者が個別面接を行っている。出された提案は検討のうえ運営に反映させるよう努めている。利用者の状態に合わせてユニットごとの勤務体制を変更したことがある。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年度始めに個人目標を立て、個人面接を実施し、また職場環境の整備等を職員と共に検討し、各自が向上心を持って働けるよう努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 県の研修、他研修の機会を確保、参加している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム連絡会に参加し、相互訪問、相談等行いながらサービスの質の向上に努めている。 | | |

| 自己 者 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|--|--|--|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 15 | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に面接を必ず行い、体験入居をしていただき、ご本人より要望、希望、不安な事等伺い、又訴えや表情からうけとめ安心できる関係づくりに努めている。 | | |
| 16 | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前に面接を必ず行い、ご家族様より要望、希望、不安な事等伺い、安心できる関係づくりに努めている。 | | |
| 17 | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 体調管理、医療面に関しては、通院、往診、リハビリ等、状態に応じて対応している。 | | |
| 18 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 日常の会話、食事の後片付け、洗濯などの家事、その他行事の中で教えていただく事も多くあり、関係も築くことが出来ている。 | | |
| 19 | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご本人の様子など、ご家族様と密に連絡をとりながら、共に支えていく関係づくりに努めている。 | | |
| 20 | (11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご家族様や、友人の方にてできるだけ訪問していただけるよう支援を行い、外出、手紙、電話もしていただけるように努めている。 | 家族や知人の訪問は歓迎している。近隣の利用者の友人訪問が増え、その友人の同行により同窓会に参加した利用者がある。家族の協力も得ながら馴染みの関係の継続支援を続けている。 | |
| 21 | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 日常生活において入居者様同士の関係を把握しながら、関わりや、支え合いができる場面を支援するよう努めている。 | | |

| 自己 | 者 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|---------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 季節の便りなど、必要に応じて電話等で相談を受けている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (12) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 個別ケアに努め、出来る限りご本人の意向に添うように支援しているが、内容によっては実施困難な場合もある。 | 利用者の意向は日々の介護の中で聞き取るようにしている。コミュニケーションが取れない利用者には、うなづきや表情の動きなどから推量し、家族にも確認のうえ真意を汲み取るように努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時にご本人やご家族様からの情報を得て、又これまでのサービス利用等は資料などから把握し、楽しく生活していただける様努力している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 居心地の良い空間において、入居者様一人ひとりの残存機能に応じて、支援を行う。 | | |
| 26 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 面会時等に、ご家族様の要望などに添って月に1回の会議でアセスメントを行い、介護計画を作成している。 | 職員全員で利用者の変化を見逃さず介護記録に記入し、それを元に、各担当者が利用者個々の意向を確認しながら介護計画原案を作成。月1回のスタッフ会議で原案を検討し、家族と主治医の意見を参考にしながら計画作成担当者が完成させている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の状態の情報等を収集し、それらを個別記録やバイタル表等に記すと共に介護計画の資料にしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 通院、外出等その時々々の要望に応じる様努力はしているが、困難な場合もある。 | | |

| 自己 | 者 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|---------|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 近隣の公園、商店での買い物、地域の学校の行事、自治会の行事の参加を行っている。 | | |
| 30 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご本人、ご家族様の希望に添いながら適切な医療が受けられるよう支援している。 | ほとんどの利用者が納得して事業所の協力医をかかりつけ医としている。家族等と受診する場合は情報の伝達方法を話し合い、適切な医療が受けられるよう支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 入居者様の状況に応じて主治医に相談し、必要な場合は、個別で訪問看護師等に相談できるよう支援している。 | | |
| 32 | (15) | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は、速やかに情報提供を行い、入居者様の安定を図る為、頻りに面会を行い、ご家族様、病院関係者と連絡を密にとり早期退院に努める。 | 入院中は週に2回ほど見舞いに行き、利用者の不安感を和らげると共に病院関係者と情報交換している。早期退院に向け、訪問リハビリや生活の中でのリハビリを検討して、その人に応じた支援方法を職員と話し合っている。 | |
| 33 | (16) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時、体調の変化時にご本人、ご家族様等と早期に話し合いの場を持ち、事業所の現状において、支援できることを説明している。 | 看取りはできないことを契約時に話している。入居後の状態変化には出来るだけ対応したいが看取りは難しいので担当医とも相談して、早期に家族と話し合いを行っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 定期的に講習を受け、実践力を向上させることに努めている。 | | |
| 35 | (17) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 1年に2回入居者様と共に避難訓練を行い、地域の方々にも参加していただき、夜間を想定した訓練もおこなった | 22年度は4月自治会役員と民生委員の参加のもと消防署立会いで避難訓練を行った。11月には利用者職員と一緒に小規模多機能事業所での避難訓練のDVDを鑑賞し、避難経路の確認をした。備蓄は現在は用意していないが、事業所では、今後備蓄も含め、災害対策の見直しを考慮中である。 | 通りをはさんで向かいに消防署があり心丈夫であろうが、備蓄も含めた災害計画の見直しを期待したい。 |

| 自己 | 者 | 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|----|--|--|--|-------------------|
| | | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 36 | (18) | | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの気持ちを尊重し、状態を受け入れ適切な言葉かけや対応をしている。 | 思い込みを否定しないように対応し、本人の訴えを受け止めるよう努めている。本人の思いが伝えられない場合等推測して問いかけ、気持ちを尊重するようにしている。介助は居室へさりげなく誘導してプライバシーを損ねない対応をしている。 | |
| 37 | | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 行動、表情の変化に気を配り、希望や思いを把握し、自己決定できるように働きかけている。 | | |
| 38 | | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ご本人のペースで生活できるよう、なるべく希望に添えるよう努めている。 | | |
| 39 | | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 個性を大切に身だしなみ、おしゃれ、季節に応じた服装の声かけ、必要に応じて、美容院、訪問理美容を利用している。 | | |
| 40 | (19) | | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事前後のテーブル拭き、下膳、食器拭きなど職員と共に行っており、食事も和やかにされています。 | 食材は業者が配達して、調理専門スタッフが調理している。おやつや行事食は利用者と職員と一緒に作っている。職員も一緒に食事している。 | |
| 41 | | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事は、カロリー計算されており、個々に応じた形態、量、体調などに応じて提供し、水分は、食事以外に配茶の時間をつくり、希望時なども提供し確保している。 | | |
| 42 | | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、ご本人に応じた口腔ケアを実施し1ヶ月に2回歯科医師による口腔管理を行っている。 | | |

| 自己 | 者 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|---------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (20) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個々の状態に応じた排泄誘導を行い、排泄表を利用しながら、声かけを行い、トイレでの排泄を支援している。 | 排泄パターンを把握して声かけしている。職員はトイレでの排泄を大切にしており、職員2人介助で行っている方もある。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄表を利用し、体操、乳製品など食事に取り入れ、個人的に乳酸菌飲料を摂取される方もあり、水分補給もしっかり行い、医師に相談による薬の処方もある。 | | |
| 45 | (21) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 体調管理を行い、入浴を楽しんでいただいているが、曜日、時間など希望どおりでないことがある。 | 少なくとも週2回入浴できるよう、午後の時間帯にタイミングを見計らって声かけしている。職員と話しながらゆっくりと入浴してもらっている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 自然な睡眠の為環境づくりに配慮しているが、不眠を訴える方には、医師に相談し安眠出来る様に支援をしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の管理、服薬確認は、職員が行い変化があった場合すぐに医師に連絡する。薬の副作用等は、順番に薬剤師による薬剤指導を受け理解に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりの趣味や、生活歴を活かし、喜びを持って取り組んでいただけるよう支援している。 | | |
| 49 | (22) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ご本人、ご家族様の要望に応じて、体調や天候を配慮しながら支援している。 | 隣の公園を散歩したり、おやつ等買い物に時々でかけている。事業所の屋上で洗濯物を干したり、菜園で野菜を収穫することもある。家族との買い物、お花見、外食に出かける外出支援がなされている。 | |

| 自己 | 者 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|---------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 個人の小遣いは、事故防止の為、家族様の希望もあり事務所で管理をしているが、買い物等は、希望に応じて職員と共に行っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご本人、ご家族様の希望に応じ支援を行っており、ご本人が出来ない場合は職員が手伝う。 | | |
| 52 | (23) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居間にソファ、廊下にベンチがあり、自由に談笑できる場所を確保し、廊下などの壁には、作品や、写真が掲示しており、季節に応じた飾りを共に作成している。 | 中庭の見える廊下にベンチが置いてあり、くつろげるスペースになっている。テーブル等の配置はユニット毎に利用者に合わせて工夫されている。居間には、季節感のある利用者手づくりのきり絵カレンダーやお花も飾られている。浴室には、利用者の身体状況に対応できるリフトも取り付けられている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 居間、廊下などで気の合った入居者様同士が過ごせる場所がある。 | | |
| 54 | (24) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご自宅で使用されていた家具、寝具、写真、小物類等を持参していただいている。 | ベッド、たんす以外は自宅から馴染みのものを持ち込まれている。ゆっくりくつろげる居室となっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 全室バリアフリーになっており、普通に生活ができるように、場所の表示をわかりやすくするなど工夫している。 | | |